

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	第4回地中海言語研究国際会議余話 〈紀行〉
Author(s)	藤原, 与一
Citation	広大言語 , 11 : 24 - 25
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046370
Right	
Relation	



紀 行

第4回地中海言語研究国際会議余話

藤 原 与 一

ことしの4月、上記の会合に出席しました。ことばのわからぬ私が、出かけてどんなことになるかと不安でしたが、招かれる身の幸を思って、妻とともに出かけました。

4月上旬の1週間、ユーゴスラビアのドブロブニクで、たのしく会期をすごすことができました。

地中海言語研究国際会議の常置の委員会は、この1大内海域を対象として、地中海言語図巻を作ろうとしています。こんど、その第1分冊が出ました。これは、上記の会合の最終日に飛行機便でとどけられ、まずこの会合の出席者に配布されました。

多言語にわたって、いわゆる言語地理学的な調査を実施し、それを言語地図にしたものとしては、一しつつあるものとしては、第1に、この地中海言語図巻(L. A. M)が目されるかと思えます。

伝え聞きますと、東欧でも、スラブ語圏かしらの言語地理学的調査が実施されつつあるそうです。言語の地理学的調査もだんだん大型になってきます。

私は小型の瀬戸内海域調査を手がけてきたものですが、それでも、内海域研究ということでは、地中海域についての先方の調査と軌をずらしますので、私は、かねて、双方の比較に興味を感じてきました。

今、もう一つの興味を申してみますなら、北欧のバルト海域についての調査がなされたら、さぞおもしろいと思うのです。(あわせて、日本での、やっておもしろい所を申しますなら、九州西北辺島嶼地域があります。これは「内海」ではありませんが。)

ユーゴスラビアは、言語状態の複雑な国です。ただしこれは、私などの申してよいことではありません。すじちがいですが、ただ、一つの経験を申し述べましょう。ドブロブニクで、ある日の夕がた近く、一つの旅行案内所をたずねました。ユーゴ国内の旅行について、ものを聞くためでした。その、50歳前後かと思われる婦人の話しです。セルボ・クロアートとクロアート・セルボとはちがうと言うのです。この婦人は、日本の俳句のことも知っていて、俳句と、ユーゴの詩との似寄りを話題にしたりしました。ことばについての上の言いかたは、どんな意味を持つものでしょうか。

関係の、他の話題になりますが、ユーゴのアドリア海岸の多くの島々では、島ごとに方言のちがっている様子が見られるそうです。予想されることでもあります。ノビ・サド大学のイビッチ教授が、このことを語ってくれました。イビッチ教授は、ユーゴスラビアに、方言調査、言語調査の課題の多いことを語ってくれたのでした。

Ⓢ

ドブプロニクでの私どもの宿は、イクセルシオールというのでした。海辺景勝の地にあり、ホテルのへやからは、まむこうに、美しい古城の町が見えました。また、アドリヤ海の島々が見えました。〈学会の最終日には、一つの島への遠足会がありました。残念なことに、私どもは、その前の日の午後の発表の疲れで、朝7時30分発の遠足には、参加することができませんでした。〉

宿である晩のこと、ロビーにおいて、コーヒーを注文しました。持ってきてくれたのを見ると、そのうつわが、日本風の、古風な感じのやきものです。カップは、ごく小さいものでした。それに、少量のコーヒーがはいっています。これを見て、私どもは、日本の玉露をすすめられたような気になりました。外国にきて、こんなおもむきのコーヒーに接しようとはつゆ思いませんでした。ものめずらしく感じました。おいしく、そのコーヒーを飲んだのでした。

ベオグラードで泊った宿が、偶然のこと、また、イクセルシオールというのでした。もともと、こちらのイクセルは、私どもがさがした宿なので、気の張らないホテルでした。

その5階かしらのへやの2晩め、ねまきに着がえようとする、私のパジャマが、どこにも見あたりません。変だなあ、というわけです。さがしあぐねて、フロントに電話しました。まもなくメイドさんが来てくれて、さて私のパジャマをとり出したのは、どこからだったでしょうか。じつに、私の寝台の、枕の下からでした。そうでしたかと、私どもは日本語でお礼を言います。彼女は、ことばすくなに、セルボ・クロアチヤ語で何かを言い、にっこりほほえんで出て行きました。

どこでもここでも、新しい経験をしたのが私どもの旅でした。学会は、私どもに、多くのよいものを与えてくれました、

(46.9.28.)

イ タ リ ア 通 信

(イタリア留学中の古浦敏生氏より研究室宛てのもの)

☆ (前略)僕は22時間余りの飛行機旅でやや疲れましたが、それでも元気にローマ空港に着きました。伊外務省で留学生としての証明書を貰い、在伊大使館で外人登録をしまして、ローマでの仕事が済みました。本日は気も楽になりましたので、フォロ・ロマーノ、コロッセオ等を見物、その後バチカン市国に向いました。サンビエトロ寺院の中には、有名なミケランジェロのピエタがありました。聖母マリアのやさしい微笑が私をひきつけ、しばし立たずみました。たどたどしいとは云え、日本人がイタリア語で話しかけるわけですから、イタリア人の方も好意的でとても親切にしてくれます。ローマに来てみて、やはり伝統ある文化・歴史を持つ